

## 介護福祉士合格の道のり

心臓の音が聞こえる、手の震えが止まらない。まさに、受験当日と同じ感覚で迎える合格発表日でした。ここまでの道は長く遠い道のりでした。

私は子どもの頃、六年間家族と一緒に日本で暮らしたことがあり、日本が大好きになりました。日本はフィリピンと文化も習慣も大きく違いますが、出会った人達はすごい優しく温かい、私にとって日本は第二の故郷と感じました。フィリピンに帰ってからもずっとずっと、また日本に戻りたい、またいつか友達と逢いたい、日本で仕事をしてみたいという思いがありました。EPAのプログラムのことを聞いた時、私はすぐに申し込みました。「日本にまた戻れる」と思うだけでドキドキワクワク、嬉しさでいっぱいでした。

このプログラムは、3年間介護の実務経験を得て、国家試験を受けるものでした。仕事をしながら勉強をするので、両立することは本当に難しかったです。最初の頃は、仕事に追いつくのに必死でした。介護施設の利用者様が使う日本語は方言があり、理解するのが困難でした。また、業務の中で使う医療用語も難しく、利用者様の名前を覚えるのにも苦労をしました。勉強では、週一回NTトータルケアで介護福祉士国家試験の勉強に出させていただきました。先生方は難しい教科書を丁寧に分かりやすく説明してくださいました。簡単な日本語を使ったり、興味のある内容を教材に利用したり、沢山例を上げたりしてくださいました。先生方は生徒を良く観察して、苦手科目や得意科目、テストの答え方、メモの取り方にも配慮してくださいました。個人にあった勉強法を提案してくださいました。また勉強面だけではなく、日本での生活面にも気を配ってくださいました。生活のアドバイスをしてくださったり、困った事にも対応してくださいました。他の国で暮らすのは本当に難しいと思っています。愛する家族や友人とも逢えない、文化も習慣も大きく違うし、価値観だって違います。言葉の壁は大きくて何度も何度も泣いたことがあります。私は、日本に暮らしたことがあるので、その経験がメリットと感ずることもあれば、プレッシャーでデメリットとも感じていました。心のどこかで、しっかりしないと、日本語が分かっているからだと思われがちで、分からない事があってもなかなか聞けず、絶対に合格しないとなど孤独感を感じる日々もありました。私はもともとプレッシャーに弱く、自分の気持ちも言えず、周りのことをすぐ気にする性格であったので泣いて泣いて泣ききれなかったこともありました。「帰りたい」と何度も考えた事もあります。でも、ここで諦めては何もできない。自分には厳しく、時には優しく、自分なりに頑張るしかないと思いました。仕事では積極的に話し掛け、授業では、分からない事があれば、調べたり、先生方に聞いたりしました。

日本に来てから4年が経って、少し強く成長した自分がいると感ずることができました。仕事にも少し慣れ、自分の意見を言える事ができ、仕事場の人達や利用者様ともコミュニケーションを取る事が出来ました。フィリピンの仲間やインドネシア、ベトナムの仲間も増え、共に頑張れる、悲しみや辛さを分かち合える、そして楽しみを倍に感ずられる人達に出会う事が出来ました。日本は弱虫な私を強くしたのです。それは、たぶん何度も転び起き上がり、ぶつかってはめげず、歩き続けたからだと思います。その勇気と希望をくれたのは、施設の方々、いつも忙しい中、声を掛け元気をくださいました。施設のサポートなしではここまで来ることができなかつたと思います。先生方の熱いサポート、厳しさの中に優しさがありました。そして家族と友達、いつでも暖かく見守ってくださいあって、応援してくれたからです。

合格発表日、パソコンの画面に自分の番号があり、込み上げるものがいっぱいでも泣いてしまいました。介護福祉士合格です。嬉しいさでいっぱいです。ここまでの道のりは、確かに長く遠くとも感ずりましたが、笑顔でいっぱいですごく楽しい道のりでした。昔と変わらず私は日本が大好きです。まだまだ、未熟な私ですが日本は自分が決めた道、自分が大きく輝ける場所だと信じています。これからも新たな目標を作り頑張っていきたいと思っています。